

High♥Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!

若林区まちづくり協議会会報

2013.3.1

Vol.16



▲土樋・舟丁・南染師町付近略図

会報13号で紹介した「清水小路から湧き出た水が東へ分流して「孫兵衛堀」と呼ばれる町内堀になり、その水を土底の樋を架けて流したことから「土樋」の町名が生まれました。

土樋は広瀬川沿岸の東西に長い通りで、江戸時代には、西に侍屋敷や鷹匠の屋敷、東に鷹の餌を集める餌指衆の屋敷が配置されました。しかし、昭和の初めの市電開通やその後の国道拡幅等で二つに分断され、今はかつての屋敷町の長い道筋を想

土の樋で用水を流した 土樋

若林区の西部に位置する土樋、舟丁、南染師町は、共に水の恩恵を受けて発展した町です。また、江戸時代の町名をそのまま残す歴史ある町でもあります。そこにはどんな由来があるのでしょうか。広瀬川から愛宕堰に、そして七郷堀へと、川の流れに合わせてゆっくり散歩してみました。

若林区探訪
その三

水の流れとともに栄えた町 土樋・舟丁・南染師町

像するのは難しいようです。

土樋を縦断する地下鉄と孫兵衛堀はどこで交又するのかなどと考えながら歩いていると、地上に立ち並ぶマンションから子どもたちの明るい声が響いてきました。昭和の土樋を知る私は、あの賑わいをもう一度！と願わずにはいられませんでした。

舟衆と舟宿の町 舟丁

土樋を南東に下ると舟丁が見えてきます。ここは昔、水運の仕事をした舟衆が多く住んだことから「舟丁」と呼ばれ、今に至っています。また、物流の要所でもあり、米や材木は、名取川河口の開上から広瀬川をさかのぼって舟でここに運ばれ、藩の米蔵や材木蔵も置かれました。対岸からも人馬や物資が舟で頻りに送られたので、旅人の舟宿が立ち並んだ船着場町としても栄えたところなんです。さらに、一時期遊女町があったこともあり、当時の繁昌のほどがしのべれます。

舟丁を七郷堀に沿って南下すると、昔の面影を今に残す駄菓子屋さんののれんが……。早速ほうばって歩きました。昔の賑わいはそれとして、現在は、とても静かで落ち着いた町になっています。

染物屋が立ち並んだ 南染師町



「わかばやし歴史かるた」より 七郷堀染物ざらし

南染師町は、七郷堀沿いの、文字通り染師たちが住んだ町です。政宗の死後に霊屋下の染師町から一部移住して、「南染師町」の町名となりました。元の上(北)染師町の絹染めに対して、南染師町は、足軽や商人に需要の多い木綿染め(藍染め)を独占的に扱い、七郷堀の用水の便もあって長く栄えました。今は染物屋も三軒程になり、染物を川でさらす光景も見られませんが、四十年前位までは仙台の風物詩の一つでした。今年の区民まつりでは七郷堀にゆかた地を流して昔を懐かしんでもらいました」と語る「永勘染工場」の専務さん。伝統を継承しつつ、今はネットで全国に販路を見出し、後継者の育成にもつなげたいと、若さと情熱をみながら歩いています。

《参考文献「仙台地名考」「仙台の由緒ある町名通り名を訪ねて」「仙台市史」(引地 記)

会報の愛称 「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とをかさねあわせた造語です。温かさより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

若林区まちづくり協議会(「まち協」)主催

“若林区民 ふるさとまつり” を おいに語る!



「まち協」会員有志による座談会

今回良かった点は?

第24回をむかえた
今年度の「区民ふるさとまつり」も
おかげさまで
今まで以上の盛り上がりを見せて
終了することができました。
しかしながら、これに満足せず
社会の変化に応じた
より新しい形を模索して
区民みんなが参加できるような
おまつりにしたいと
「まち協」会員の有志で
フリートークキングしました。

司会(西條) まず、今年のふるさとまつりで良かった点を出し合います。
早坂 被災された地区の方が区役所わきですずめ踊りを披露したのは、動きのある新しい形でも良かったと思います。これの一つの突破口として、場所を検討しながら広げていけたらおもしろいのでは……。
勝又 天気が良く、事故がなかったのが何より。子どもたちの出し物が多くなって華やき、見ている人も楽しそうでした。食べ物を出す店が昨年より増えて賑わいを増したと思います。

今後の課題は?

日下 初回から関わった者として、おまつりがいつしかコミュニティ参加型のスタイルに変わってきて、様々な組織団体と結束してできるようなったのは良かったと思っています。今後は、社会環境の変化や少子高齢化等も考慮し、新しい形のステージを創製して地域コミュニティにどう貢献できるかを模索したい。
司会 「私の作品展」もパターンを変えて1階に集中させましたが、一体感と見やすさが出て良かったようです。来場者が多く、雰囲気もなかなかでした。

司会 次に、次回に向けての課題と思われることをあげてください。
勝又 お絵かきのコーナーが1階奥にあったので参加者が少なく、呼び込みが必要でした。通路など、子どもが寄りつきやすい場所を考えたいものです。
日下 コミュニティをよりよい方向に変える時期に来ているので、子どもたちの参加の部分をもっと全面的に押し出してもいいのでは。
司会 ステージは参加者が

司会 会場内にコーナーを設け、町内ごとにシールをはってもらう方法はどうでしょう。
日下 ポスターは各町内会でほぼ確実に掲示してくれるので、広報の助けになります。
司会 次回はデータをとって、それをもとに広報の仕方や中身を考え、より確実に伝えていきたいと思います。

「まち協」の今後の活動

司会 ふるさとまつりが「まち協」主催であることを知ってもらうにはどうしたらいいでしょう。
日下 「まち協」とおまつりとの関わり方はスタート時点から大きく変化し、今は「まち協」とおまつりが一体だというアピールをする時期にきていると思います。「はいりん若林」、「ラヂオはいりん若林」等、広報の宣伝力に期待!
勝又 おまつりの舞台の周辺に、あいさつに、ちらしにと、たえず「まち協」という言葉を出し、目で見て、耳で聞いて、語っていきながら理解してもらう方法は有効と考えます。総会などでも「まち協」を前面に出して話

司会 現在の広報の仕方や内容は区民によく伝わっているのでしょうか。
早坂 区内のどの町内から来ているのか、他区からはどうかなど、データをとってみては……。

多く、振り分けが大変なので、二日に分けて文化面の発表の場をより多く提供するのには「まち協」の役割としてどうでしょう。
早坂 例えば余暇が多くなる団塊世代の方に對してニーズに応じた出場の場を提供していく必要性を感じます。今後の重要課題ですね。
司会 参加者の年代的なことで今後話を深める必要があるようです。
日下 運営の基盤を作るのは「まち協」でも、発表の場を仕切るのは他団体の方が自主的な運営ができて良いのでは……。
勝又 積極的に活動しようとする文化グループから一名ずつ出て組織化する方法もありますね。
司会 前年度までの自転車や駐車場の問題はクリアできましたが、今回、文化センターの東側の道路が駐輪場になってしまったのは残念。管轄外の盲点箇所、不測の事態にも早めに対応できるようにしたいものです。

人材の活用について

司会 実行委員の顔ぶれが変わっていませんが、人材

すのがいいのでは……。
早坂 「まち協」の役員が中心となるイベント以外は「まち協」の事業であることが知られていないかもしれせん。役員がイベントにできるだけ顔を出してアピールできると思います。
司会 おまつりの中で「まち協」をもっとアピール

の活用はどうあればいいのでしょうか?
早坂 区内に人材は多いと思いますが、同じメンバーなので中に入れないのでは……。できれば企画の段階から若い人に参加してもらおうと中身も刷新できると思います。
司会 次の世代へつなぐため、アルカス(児童生徒健全育成ボランティア)・ポラリス(大学生)、ジュニアリーダーも含めて若い人たちに今までしていなかった声かけや投げかけをした方がいいようです。同時に、声かけしていない部分をリサーチするのも良いのでは……。
勝又 社会全体の問題として、商店街や働き盛りの方への声かけは難しい面があります。
司会 ふるさとまつりは人材発掘の場。そのためには様々な方面と連携して様々なチャンネルを活用できる基盤づくりが大事かもしれません。
日下 それには、実行委員会を組織構成する最初の時点が重要。ベースになる社会状況を把握した上で、賛同を得るテーマを掲げて人材を求め、声かけに

していくこと、役員の人も機会あるごとに意識してアピールするなどして、区民に「まち協」の顔を見せていくことが大切ですね。若林区民みんなが参加するふるさとまつりにするために……。今日はありがとうございました。(菅井・志子田記)

若林区まちづくり協議会人材育成事業



若林区におけるまちづくり活動の役割を果たす若手の育成を目的として「わかばやし倶楽部」が発足し、平成24年11月20日に11名の参加で第1回顔合わせが行われました。

始めは緊張が見られたものの、他己紹介(2人1組でお互いを紹介し合う)で場がなごやかに、グループでの話し合いにも深まりが感じられました。スローガンは「若林区をみんなに愛されるまちにしよう!」です。若い知恵と体力で学び合い、企画・活動計画づくりから実際の運営までを行います。

興味、関心のある方は事務局までご連絡ください。皆様の参加をお待ちしております。
TEL.282-1111(内線6137)



4・5月

役員会・総会

7月

若林区合唱のつどい



8~11月

若林区スポ・レク・フェスタ

10月

若林区民ふるさとまつり



1月

「はいらいん若林」Vol.17発行

毎月1回程度 わかばやし倶楽部

7月~翌3月 「ラジオはいらいん若林」放送

76.2MHz ラジオ3にて毎週土曜日 午前10時から

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。 ※実施内容・時期については変更となる場合があります。

若林区みんなでまちづくり塾 その3

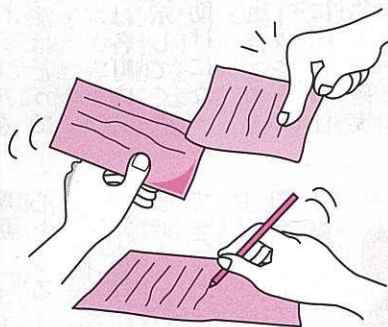
今回はまちづくりの手法としてよく使われる「ワークショップ」について私芳郎「ヨッシー」と考えてみましょう。

私たち住民と行政が手を取り合っていく『まちづくり』には、住民としてやらなければならないことがたくさんあるのです。その中で大切なものに、みんなの気持ちをつなげることがありますよね。その方法として『まちづくりワークショップ』がよく使われます。

『ワークショップ』に参加している人はまちづくりを一緒に考え実行していく仲間ですから、いろいろな立場の人が参加しているわけですが、けんかしたのではまともませんよね。ですから、互いの意見をよく聞いて理解しようとする気持ちが大切だと思うのです。つまり、話し合いを続けることが重要であって、攻撃的な反論は避けた方が話しやすいということです。



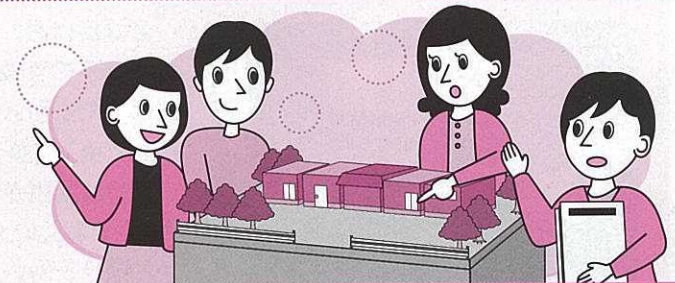
●●●『まちづくりワークショップ』をまとめると●●●



- ①まちを見る→現在のまちに対して共通認識を持つ。良いところや悪いところを知る。
- ②まちを考える→現在のまちと、これから住みたいまちについて話し合い、どのようなまちにしたいかを考える。それぞれがカードに意見を書いて貼り付けていく(KJ法)。
- ③まちのイメージを表現する→絵や図面を皆で書いたり模型をつくったりしてイメージを目に見えるものにしていく。
- ④まちづくりのルールを考える→ルールがないとそれぞれ勝手な方向に向かってしまうので、ワークショップでだいたいの中核を組み決め、合意を形成していく。

こんな流れで、皆と汗を流しながら、こころ合わせて行っていくことが『まちづくりワークショップ』なのです。

今度ヨッシーと一緒に若林区のための「ワークショップ」をやってみませんか。(西條 記)



若林区まちづくり協議会

..... 事務局

若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー

リーダー 勝 又 久 雄
西 條 芳 郎
菅 井 てる み
本 多 や 糸 子
引 地 よ し い
志 子 田 喜 恵 子

編集後記

若林区まちづくり協議会(まち協)は、区民一人ひとりの創意と参加により、「住みよい魅力のあるまち若林区」を目指し、行政と協働によるまちづくりを行っております。今号に掲載した「わかばやし倶楽部」は、「まち協」肝いりの新規事業です。平成27年度には地下鉄東西線が開業し、復興と相まって益々活力を得ていく“人情のまち若林区”のまちづくりを一緒に考え、実行してみませんか? 皆様の「まち協」活動へのご参加をお待ちしております!(まちづくり協議会事務局 尾崎 記)